

氏名	木 村 嘉 宏
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3 1 1 5 号
学位授与の日付	平成 9 年 6 月 3 0 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Usefulness of Indocyanine Green Injection during Ultrasound-Guided Liver Biopsy for the Diagnosis of Small Hepatocellular Carcinoma (小肝細胞癌の診断におけ る ICG 静注後の超音波ガイド下肝生検の有用性)
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 原田 実根 教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

機能的かつ迅速に肝細胞癌(HCC)の診断をするためにICG静注後の超音波ガイド下肝生検(USGB)の有用性について検討した。肝組織は136症例、251個の占拠性病変(SOL)に対し、ICGを静注後、USGBによって採取した。直ちに赤外線ビジコンカメラを用いて組織のICGの取り込みを観察し、その後組織診断を行った。ICGの取り込みがない112結節のうち105結節は組織学的にHCCであり、6結節は異型結節、1結節は再生結節であった。逆にICGの取り込みを認めた139結節のうち、18結節はHCC、1結節は異型結節、120結節は再生結節であった。HCCの診断におけるICGの取り込みが認められない感度(SEAIU)、ICGの取り込みを認めない特異性(SPAIU)、そしてICGの取り込みを認めないことのHCC診断の予測値(PPAIU)はそれぞれ85.3%、94.5%、93.8%であった。251個のSOLのうち、184個は2cm以下であり、これら小HCCの診断におけるSEAIU、SPAIU、PPAIUもそれぞれ85.3%、94.5%、91.4%であった。これらの結果はICG静注後のUSGBが小HCCの診断においても信頼性があることを示唆している。なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究は肝硬変136症例、251個の肝占拠性病変に対し、ICG静注後の超音波ガイド下肝生検を行い、赤外線ビジコンカメラを用いて組織のICG取り込みを観察し、その結果と病理組織学的所見との関連を比較検討した臨床的研究である。本法は迅速かつ容易に癌組織を選別し、小肝細胞癌の診断において有用であることを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。